

インターネットの常識？ 「情報モラル」とは、 一体何のこと？



インターネットは、大人だけではなく、子どもたちにとっても身近なものになりました。その一方で、子どもたちが、インターネット上での誹謗中傷やいじめに遭ったり、犯罪や違法・有害情報に触れたりすることなどが社会問題となっていることから、学校や家庭において、子どもたちの発達の段階に合わせた情報モラルを指導することが求められています。

「情報モラル」とは何？

情報モラルとは、「情報社会で適正に活動を行うための基になる考え方と態度」のことであり、情報モラルが身に付いているかどうかの判断に必要な要素には、「日常のモラル」と「仕組みの理解」が挙げられます。

(右図参照。)

「情報モラル」を理解するには

情報モラル教育は大事だとは思っていても、「何から手を付けたらよいかわからない」「進化が早くてついていけない」などと、自信が持てずにいる方も多いでしょう。でも実は、インターネットにかかわる問題の本質はほとんど変化しておらず、情報モラル教育に必要な要素は、右図にあるとおりそれほど特別なものではありません。

次号からは、「仕組みの理解」の中でも重要な、「公開性」「記録性」「信ぴょう性」「非対面コミュニケーション」について順次御紹介します。

情報モラルの判断に必要な要素

日常のモラル

- ルール・約束を守る。
- 人を思いやる。
- 正しいか確かめる。

仕組みの理解

インターネットの特性

- ・公開である【公開性】。
- ・情報が漏れる。
- ・信用できない情報がたくさんある【信ぴょう性】。
- ・記録が残る【記録性】。

心情的・身体的特性

- ・夢中になってやめられなくなる。
- ・対面ではなく伝わりにくい【非対面コミュニケーション】。
- ・不安になる。
- ・感情的になりやすい。

機器やサービスの特性

- ・夢中になりやめられなくなるサービスがある。
- ・いつでもどこでもつながることができる。
- ・サービスの提供側から様々な勧誘がある。
- ・無料であることをうたって利用を勧誘してくる。

参考：情報社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き（文部科学省）

指導の要点

具体的な情報モラルの指導では、「日常モラルを育てる」「仕組みを理解させる」「日常モラルと仕組みを組み合わせて考えさせる」という3つの視点が必要となるため、学校生活のあらゆる機会を捉えて指導を行いましょ。

また、情報モラル教育は、情報機器を使い始める前後の指導が非常に重要となりますが、家庭によって情報機器を持たせる時期は異なるため、可能な限り家庭と連携しながら、学校全体で繰り返し指導を行うことが大切です。

◎本資料は北海道教育委員会とピットクルー株式会社が平成28年7月に作成したものです。子供たちのインターネット利用に関わる相談等がありましたら、下記のURLまでご相談ください。

◀北海道教育委員会ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト▶

<https://webreport.pit-crew.co.jp/hokkaido/helpsite/>